



善正寺だより

掲示板法話

有難うと生かされ、おかげ様と生き抜こう

(大谷光照前門主「こ」消息より)

今年も暑さ厳しい八月を迎えました。最近の猛暑はつくづく身体にこたえますが、そんな時、親やご先祖のご苦労を思い起こすと、何か心のエネルギーを頂けるような気がします。

父は暑いさなか、自転車でお盆参りに出かけました。片道一時間以上の所も沢山あり、炎天下に山坂を越えてお参りをする苦労はどれほどのことであつたか、想像もできません。あるご門徒さんが「老僧さんはうちの風呂に入つて汗を流してからお勤めされましたよ」と聞かされました。時折戻つて、お風呂場で汗を流し、また出かける姿を見たことがあります。その時、ねぎらいの言葉もかけなかつた至らなさを近頃しきりに思い出します。

昨年のお盆の頃、テレビで「四十三通の絵手紙」という話が紹介されました。山口県下関市に住む小林喜三さんは、長年の宿願がなつて父親の最期となつた戦地ニューギニアを訪れました。一歳のとき出征した父の思い出は何もないけれど、出征から二年間に送られてきた絵手紙四十三通、それが唯

一でした。南方の島の風景や兵隊姿の父親の自画像など、幼いわが子に父のことを知らせたいとの願いの結晶とも言える絵手紙です。最初の頃は、色鉛筆を巧みに駆使したきれいな絵だったのですが、次第に色彩が乏しくなり、「死んでもいいから水をくれ！」という文字で手紙は途絶えてしまいました。その手紙から二カ月後、二十九歳で戦死されたのだそうです。それから六十三年後の昨夏、ニューギニアの青い海に向かって「お父さん！」と叫んだ小林さんは、「これでやっと私の戦後が終わりました」と語つておられました。

お盆の季節、私たちのいのちはこうした先人のご苦労を経て受け継がれていることを噛み締めましょう。「お父さん」「お母さん」と呼ぶ声は、「有難う」と生かされ、「おかげさま」と生き抜く念仏の教えにより、確かな道しるべとなつて働いて下さいます。



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

8月23日(土)午後1時半・夜7時半

24日(日)午後1時半

講師・加藤正人先生(桑名)

お経開きは23日(土)午前10時半です。

♪三重組コーラス♪

※8月5日(火)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問

8月30日(土)夜7時半練習

2008御堂演奏会楽譜CD配布。同時に11/22の参加葉書受付開始します。参加交通費(6千円)〆切りは9/20(土)夜の練習日まで。9月練習日は第3土曜(連研のため)

◇キッズサンガ8月2日(土)4時お経、紙芝居、ゲーム等

◇一縁会テレホン法話11冊目の本『逃けたらあかん』発売中
059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます

予告:※8月3日(日)午前8時「おみがき」行事さんよろしく

※8月上旬、行事さんが平成20年度門信徒会年会費を集めに参ります。ご協力よろしくお願ひします。

※ホームページ作成に奮闘中!近日中にお知らせします。

平成20年7月2日 名古屋別院音楽祭
三重組コーラス58名の歌声が響く。
参加団体で抜群の最多人数。
三重組の元気「よさ、チームワークをアピール」



★お悔やみ申し上げます★
★船山繁子様(小杉町・八十九歳・六月三十日) 台掌



120.7.2 名古屋別院 三重組コーラス58名の歌声響

坊守スケッチ

油断は怪我の基

七月初旬、思わぬ怪我をしてしまいました。夕方あるお宅を訪問した時のこと。お留守だったので、用件を紙に書いて置いておこうと振り返った途端、玄関の段差を踏み外して転んでしまいました。荷物を持っていたので、手をつく暇もなく左顔面を強打！こけた瞬間、「これはエライことになった」と気が動転。何とか立ち上がって家まで辿り着きましたが、鏡を見てビックリ！左眼の上下には大きなこぶが二つでき怪我をして、顔はもはやお岩さん状態。夜間と休日が重なり医者はお休み。自分で消毒して氷で冷やす応急処置。左眼は大丈夫なので、これだけでも有り難いと自分に言い聞かせるました。顔に大きな絆創膏を貼っているの、来客の対応は家族に任せました。朝の散歩も誰にも会わないように、いつもより早目に出かけました。タオルで隠していても「どうしたのですか？」と興味津々に聞かれる始末。週明けに医者に行くと、家より大きな絆創膏を貼られ「眼の周りの黒いのは当分治らない。内出血も色を変えてだんだん下の方まで下がってくる」と脅されました。今後外出しなければならぬ予定がはいって入っているのに、こんな顔でどうしようと不安が襲いました。突然駅前のデパートまで



出かけなければならぬ用事が湧いてきました。スッピンで大きな絆創膏を貼り、左眼の周りはパンダのような顔で町へ出かけるには、清水の舞台から飛び降りる以上の勇気がいりました。しかしいつまでも家に引きこもっているわけにもいかず、思い切って出かけました。知らない人ばかりなので、聞かれることもなく見られても平気。開き直りとも取れる変な自信までつきました。その自信のおかげで翌日、

眺台のマンドリンクラブと老人ホーム慰問演奏も無事済ませ、「絆創膏のオパちゃん」の芸名まで頂きました。ところで私はその時、禅の大家と言われた鈴木大拙先生のエピソードを紹介しました。「九十六歳までお元気な長生きの秘訣は何ですか？」との問いに、先生は「鎌倉の町へ出るのに百二十段の石段を上り下りしなければならぬが、今足を置くべき石段だけを見るようにしている。つまり先を見て取り越し苦労をするよりは、今取り組むべきことを大事にして、今の今を生きた結果、長生きできた！」と応えられました。老いを生きている心構えとして、誰もが心に刻みたいお言葉です。階段は昇る時より降りる時の方が三倍も注意がいります。山登りも同様です。下山する時の方が事故は多いよ

うです。人間の心理として頂上を極めた達成感から、つい気を許して注意を怠るのです。「油断」という言葉は本来涅槃経からきた仏教語。私の怪我は慌て者の性格が原因ですが、知らず知らずの内に老いが忍び寄っていることを自覚させられた出来事でした。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆別院にコーラス終えて 梅檀の大樹被さる 鐘樓眺む

☆一年一度 盆会に集う 益荒男は 次男ばかりさ 若院様も

☆土砂降りがゼブラゾーンの 縞柄を 洗うが如く 遮二無二敲く

☆四日市市 釈弘蓮

☆ビワの皮 くるくるとむく 食べ てねと 差し出すビワの 命輝く

※思い通りにならない事は他人のせいにして、不満いっぱい孤独な自分でした。もし仏法に出会うことがなければいつでも加害者になる私でした。

「苦を引き受けてお蔭様と戴く人は 皆、如来様から誉められることが約束されている」とお説教で聞きました。

キレル寸前の私を救ってくれた家族や親に感謝せずにはいられません。

☆カンバ有難う☆

桑名三名様・廣田伊久枝様・柴田美津代様・小林様・他数名の方より頂きました

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇八月二日(土) 午後四時より

子供向けのお経、ゲーム、お菓子等

三重組コーラス

※八月五日(火)午前・陽光苑慰問

※八月三十日(土)夜七時半練習

2008 御堂演奏会楽譜・CDをお渡しします。同時に十一月二十二日の御堂演奏会参加葉書と参加費・交通費・昼食代六千円)受付開始。受付×切り

は九月二十日(土)夜の練習日

※九月の練習日は二十七日が連研の為、一週間早まり九月二十日(土)夜です。

☆ホットニュース☆

☆「大乘」七月号に川崎孝一様の「先達を偲んで」というエッセイが掲載。三重組十三日講の歴史を知る興味深い一文です。講をいのちがけて守り相続された先達のご苦労を知りました。

☆八月三日朝八時「おみがき」行事さんよろしくお願ひします。

☆ホームページ作成に奮闘中。皆さんのご意見、悩み事などの相談窓口になることを望んでいます。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一七六号をお届けします。◇ある「門徒のお宅で、「念仏の道は有難うと生かされ、おかげ様と生き抜く道であります」という真新しい額字を拝見。先年聴聞したとき

「いい言葉だな」とメモし、書道家に書いてもらったとのこと。◇家庭の中に念仏の教えを、という「門徒の麗しい心ばえに触発され、標語にさせて頂きました。◇皆さんのお盆が、心豊かな仏縁となることを願っています。

「先生、本人が信じられなくなりました。生きていられるのが空しい」とは
才の少女が訴えました。80才の先生は否定も肯定もせずた。た一言
「どうか」と頷かれました。彼女の手を取り、「君の手は仏の手だぞ」と
おっしゃいました。先生とは禪の大家鈴木大拙先生、女生徒は二
ヨク在住の岡村美穂子さん。80才でロンドンピア大学に招かれた
時のでき事でした。この光景から私は「しんらんさま」の歌を思い
浮べました。「しんらんさまは私の手を取り歩まれる」決して大
上段から「人生とはかくあるべし」と教え込むのではなく相手の
悩み苦しみに寄り添って同悲・大慈悲の心で接することだと
気づきました。その後彼女は来日し大拙先生の秘書として最
晩年の先生を支えます。90才の時本願寺から親鸞聖人
七百回御遠忌の記念事業として「教行信証」の英訳の依
頼を受け、最後のいのちの灯を燃やすかのように仕事に没頭
されました。ある時美穂子さんが「本願とは何ですか」と
尋ねると「ほうらあの昇ってくる朝日のようなものだ」と教
えられたとのこと。闇の世界から差込む一条の光。温かくて
誰の上にも平等に注がれ、こうこうとて思わず合掌したくな
る瞬間。誰もが感じ取れる何と分かり易い表現でしょう。美
正寺たよりにも分かり易いたとえて、仏教に出会えた喜びが
をお伝えする紙面作りを心掛けたと思います。人生の出逢
いは不思議なもの。先生も一少女の出会いかあればこそ、命終
える日まで素晴らしいお仕事が出来たのでしよう。八月の予定
として23(土)午後・夜24(日)午後「永代経」(加藤正人先生)・三
重組コーラスは8/30(土)夜です。暑さ厳しき折、くれぐれお
い自愛下さいませ。
平成二十一年八月 合掌 善正寺坊守輝